



また、長期化しているシニアによるウクライナ侵攻や米トランプ大統領による保護主義的な政策など、世界史の転換点とも言える時期でもある。不確実性が高まり、複雑化する外部環境の中で、経営トップには確かな情報に基づく判断が求められる。工業市場研究所（東京都港区）の日塚孝也社長に、企業の経営戦略にも関わる市場調査の重要性について聞いた。

経営改善進む

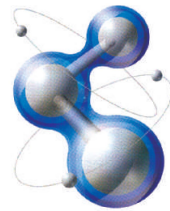
—モノづくりを巡る国内
外の情勢より複雑になり、
確かな情報が必要とされてい
ます。

しいマーケットや新技術
設備投資に対するニーズも
ある。それに加えて地政学
的に紛争の多発、政治的対

「産業構造の大きな変革期にある中、脱炭素に対応するような地球環境問題や再生エネルギー、IoTやAI（人工知能）などのモノのインターネット）らの情報の不確実性がある。立があり、ますますマーケットの構造が複雑化している。一方でインターネットなどか

日暮 琢也氏

工業市場研究所社長



モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

現地調査、情報の奥行き重視

り、企業の戦略が重要とされている。当社は1967年の創設から50年以上の歴史がある調査会社として、Bツッパ向けの情報を提供している。一般的に多い、市場体のマスを対象とするBツッカの調査とは異なり、経済活性や技術適合性を重視したリサーチを行う。リポートオーダーが90%を超え、企業からの依頼だけでなく自治体からの依頼も扱っている。会社の経営改善を進み、ここ数年、増収傾向で有利子負債はな

く2000年代初頭は20%
だった自己資本率はいまで
は80%を超えている」

「足で稼ぐ」

—「足で稼ぐ」ことを強みとして、専門性を持った調査員が時間をかけ、さまざまな角度から調査を行っています。

員が調査に行っている。直接、現地に赴き一つの視点だけではなく多面的な情報を収集する。1人からだと良い面ばかりが強調され、ネガティブな面が見えてこない場合があるので、さまざまな工程に携わる複数の方々に調査し、一つのところから聞いてまた別のところ

二つ情報源に頼ることとなる。製品部に頼るに
関する企業、供給する企業、流通の中にある方々の意見
を多面的に聞き、一テーマ
に対してしっかりと時間を
かけて情報取得するものが
強みだ。国内、海外を問
わず情報取得しており、
今もヨーロッパ10カ国で社
ろに行きを繰り返す。情報
の奥行きを重視している。取
材して情報を得ようという
力、対話をもっと調査意を
い情報を深め、企業にこの
で本当に必要な確かな情報
の取得をしていく。インタ
ネットの発達により誰が
が情報発信を容易にでき
よになり、情報が多くな



インターネットやAIが普及しており情報が溢れている中で、企業の意思決定では確かな情報が必要とされる…と話す日暮さん

調査員ら人材が財産 健康経営を実践

「多くの調査依頼の中で増えている傾向がありますか。」

値を積まない」と得ることが
難しいし、本を読んでもな
かなか身につかないので、
現場で経験値を獲得してい
く。成長スピードは人によ
って異なるが調査員が専門

モノづく系以外では、ト
最近の傾向としては、工
閩の事例研究をはじめプ
ラットフォームとしての
丁やサービス産業におい
ての依頼が増えている。ま
た、海外調査では技術パ
ーナーと提携先を探索す
るような調査が増えている。
国内に優れた基礎技術が
多々ある日本の強みにお
うが、マーケティングにお
いて貢献しており、新市場
の開拓に探索が必要ある」

性確立するところには5年
から10年かかるので、時
間をかけて調査を育成し
なければならぬ。これか
らはますます海外の情報
が重要となるため外国籍
の人も登用している。さ
まざまな世界各地に
情報収集の拠点を保有し
ている。グローバルな体制
とともに企業としてのコ
ンパニオンも重視する。ま
さに人が財産であるため、
経済産業省が進導する「健

時間かけ育成
―社員育成の難しさを感じています。

「マナーハット」の変化を敏感にキャッチし、コミュニケーション能力の素質があり、産業構造や事業素因に興味のある人材を採用している。アポイントの取り方、望者には必ず「買カメラ」検査を実施し、定年退職者に

企業戦略立案 確かな情報必要

も脳・心臓のMRI検査を全額支援するなどの取り組みも行っている。育休は男女ともに4年連続で1000%、男性も30日以上 の取得を維持している」